

2008年度第20回「ほっとスペース八王子」定期総会開催のご案内



*http://homepage2.nifty.com/hotSPACE/
「ほっとスペース八王子」のホームページも見てね。
掲示板「お遊び落書き帳」にも書き込んで下さい。
「ほっと」ニュース(PDFファイル)のダウンロードもできます。*

SSKS



「ほっとスペース八王子」ニュース

ほっと

2008年6月1日号

123号

定価 100円

編 集 人 八王子市八幡町二丁目二番地
電 話 〇四二一六二八二二
FAX 〇四二一六二〇一七
E-Mail 〇四二一六二〇一七
ホームページ <http://homepage2.nifty.com/hotSPACE/>
CXB01672@nifty.ne.jp
〇〇一八〇〇七二四六「ほっとスペース八王子」
世田谷区砧六二二六二二一 障害者団体定期刊行物協会

目次

特集	2008年度「ほっとスペース八王子」第20回定期大会	2頁～5頁
	2008年度活動方針 / 第20回定期大会に参加して / 新運営委員としての豊富 / 新所長に就任して / 2008年度新役員体制	
特集	最近気になるニュースをチェック!	6頁～7頁
	箱根小涌園日帰り旅行 / 沖縄で作業所への委託費半減! / 石原都政のもと、根津さんの解雇を阻止	
新連載	ガンダムOOSS (ショート小説)	8頁～12頁
	機動戦士ガンダムダブルオーとは? / 登場人物紹介 / リヒテンダールと クリスティナ / ロックオンとフェルトのバレンタイン / 刹那の独り言	
日々思うこと	エッセー・詩・近況報告	13頁～15頁
	ダヤンさんコーナー / 書道の時間に / 詩集 空の葉から /	
新会員紹介		16頁
	さくら桃 / 朝野 善果一	
賛助会ニュース		17頁
その他		18頁
	天皇制と「精神障害者」差別 / 書評「分断時代の法廷」 / 一読者より / 会員拡大のお知らせ /	
会員の皆様へ / 編集後記		20頁

2008年度第20回定期総会開催される

去る、4月5日、八王子市「子安市民センター」においてほっとスペース八王子の2008年度第20回定期総会が開催されました。本年は、障害者自立支援法反対の運動継続はもとより、ほっとスペースの理念を実現させていく運営形態を模索していく重要な年となります。本定期総会においては、会員の真剣な議論のもと2008年度の活動方針と新体制が決定しました。つきましては、以下に2008年度活動方針を掲載いたしますので一読ください。

(編集部)

「自立支援法」撤廃「会員の拡大」を目指して今年も頑張ろう

2008年度活動方針

★方針の柱

- (1) 「障害者自立支援法」撤廃運動の継続
- (2) 会員拡大
- (3) 会員の自立生活の維持・強化
- (4) 運営委員、実行委員の活動の強化

(1) 自立支援法撤廃運動の継続

自立支援法反対運動が大きくなり盛り返ったことで、政府が方針を変えて様々な軽減策を打ち出しました。しかし、法の骨格である報酬単価制度と就労至上主義はそのまま残っています。もっと運動を盛

り上げ、応益負担、報酬単価制度、日払い制、就労至上主義など制度の柱を折り、自立支援法を骨抜きにする必要があります。今後可能な限り自立支援法撤廃行動を強め、継続していきます。

また、一昨年度のように自立支援法反対集会、学習会、交流会などを開催して、自立支援法反対の対外的な輪を広く、強くしていきたいと思えます。更に、東京都内の各無認可作業所、移行しても継続性が危ぶまれている授産施設、移行せずに様子を見ている施設などと連携して、「障害者自立支援法」撤廃に向けて継続して活動します。たとえば、撤廃とは

いかなくても現行の「ほっとスペース八王子」などの運営が維持され、かつ発展性のあるものに変えるために撤廃行動を続けます。

撤廃行動に参加した仲間間の温度差の解消、参加した仲間としない仲間に分断が出来ることに対して、その溝を埋める学習会や全体ミーティングの充実を図ることも行います。また、「障害者自立支援法」撤廃のために様々な反戦平和団体、労働団体、市民運動と連携して活動を進めます。

(2) ほっとスペース八王子会員の拡大

これからのほっとスペース八王子を考える時に、

会員の大幅な拡大が必要条件です。「障害者自立支援法」内移行のタイムリミットの3年後、仮に補助金制度が無くなってしまった時、多くの会員が通所しているという実績があれば、行政は何らかの方策を打たなければなりません。また、「自立支援法」撤廃運動の原動力としても、会員の拡大は必須です。会員の拡大を考えて、昨年度の総括を踏まえ様々なことを試みます。

① 自炊プログラム、Wii(ゲーム機)を使ったプログラム、工賃が発生するようなプログラム、アルバイトプログラムも可能な会員はドシドシ外に出ていく。多摩一般労働組合との

連携を取って就労維持・継続に努力するなど、みんなが興味をもてるようなプログラムを展開していく。

② 写真など個人の情報を守りながら定期的に街頭宣伝をして、ほっとスペース八王子の最大の特徴である、自立支援法撤廃を大きくアピールしながら、会員を募集する。(大学・病院などでも街頭宣伝をする。)

③ これまでの会員・見学者との繋がりを保つていく。これまでの会員だけで固まらず、新たな会員や見学者が容易に参加できるように雰囲気会員同士をつくっていく。

④ 説明会の実施。場所をほっとスペース八王子に限らず、いろいろな場所で開催する。

⑤ 写真など個人の情報を守りながらホームページを有効に活用する。メール相談などを強化して、宣伝をしていく。

⑥ 通常のプログラムのマンネリ化を防ぎ、参加会員と共にプログラムの活性化、充実化を話し合っていく。例えば、見学に来た人が、また来たいと思うようなプログラム運営をしていく。

⑦ さまざまな反戦平和団体、労働団体、市民団体との交流の中で会員を拡大する。

⑧ 病院訪問を再開する。④の説明会を病院において交流も含めて実施し、退院につなげていく。会員の通院している病院にパンフレットを置いてもらう。

(3) 会員の自立生活の維持・強化

3年後のほっとスペース八王子を考えた時も、組織としても会員個人としても財政活動が強化されていけば、選択の幅が広がる可能性があります。ほっとスペース八王子の運営を考える上でも、財政活動の強化に取り組んでいきます。もちろん、就労に興味のない会員のための財政活動(障害年金取得、生保取得)にも今まで通り力を注いでいきます。更に、自立生活を確保できた仲間に対してもその後のフォロー体制を築き、音信不通状態で孤独死、自己破産、ましてや逮捕されたり、強制入院されたりすることのないようにします。

① 社会と接点を持つ活動を積極的に進める。社会と接点を持つ活動は就労だけではない。反戦平和団体、労働団体、市民団体の主催する各種集会、講演会、学習会、行動などに積極的に参加していく。

② 韓国研修旅行、日帰りバスツアーなど運営委員、実行委員などを中心に企画を立て、実行する。

③ 現在「ほっとスペース八王子」にある資源を有効活用する。具体的には、たこ焼き器を使ったたこ焼きの販売、糸鋸をつかった木工製品の作成・販売などに取り組む。印刷、丁合、発送作業の経験を生かす。

④ 「とせいざれんニュース」など東京都精神障害者共同作業所連絡会の業務委託事業を今年度も引き続き行います。

⑤ ニュース「ほっと」を定期刊行させ、その売り上げ向上に励む。

⑥ アダプペの石鹸・ヘナなど、ナイアード製品の販売を強化(ネット販売など)・継続していく。

⑦ 販売効率の良い、食品関係の新たな商品を開発していく。(スモークチーズなど)

⑧ 引きこもりの人を対象とした、海外研修企画が始まったが、本格的に運営するようにする。

⑨ 公園清掃の復活、長沼団地清掃の継続、ワークシェアリング、香華販売など、ワークセンター、就労支援センター「ふらん」の仕事に、積極的に取り組んでいく。

⑩ 一般企業や労働組合などを対象に、業務委託、寄付金・カンパ獲得活動や、賛助会会員拡大活動を行なっていく。

⑪ 昨年度に続き、可能な会員はアルバイト就労もプログラムに取り入れ、多摩一般労働組合との連携で就労維持・継続を図る。

⑫ 障害年金、生保取得活動を充実させる。

⑬ 東京しごと財団からの業務委託事業を行う。

⑭ 自立生活を始めた会員、元会員とのつながりをニュース以外にも行政などの人的な連携で保っていきます。孤独死や自己破産、逮捕などのトラブルに巻き込まれないようにする。

(4) 運営委員、実行委員の活動の強化

「ほっとスペース八王子」の以上の3つの方針は結局は運営委員、実行委員の力にかかっています。会員は次期運営委員としてまずは実行委員を経験し、力を身につけて会員間の団結力を強めるための運営委員として、さらには将来の代表として力をつけていくように全体で活動します。会則にも代表を補佐する副代表を新設し、次期代表としての力を蓄えるような組織上の活動も進めていきます。私だけが何とか自立できれば良いという考えでは最初にも述べたように生きてはいけない世の中になっています。みんなで知恵や力を出し合い、話し合って行動していく「ほっとスペース八王子」で団結して自立生活を維持し、強めていきます。その力ギは運営委員・実行委員にあります。みんなが実行委員、運営委員の経験をして、団結の意味をつかんでいきます。

2008年度定期総会に参加して

2008年度総会に参加して 渡辺広海

ほっとの

総会に参加
しました。
ブレゼンは
練習もして
おらず、い
きなりやり
ましたが
うま〜いっ
たと思いま
す。司会さ
んも上手に
すすめてく



受付準備もOKですヨ

れたので時間通りに閉会しました。ケーキがでたのですが、とても美味しかったです。

2008年度ほっと総会に参加して

ディクシー

今回初めて総会に参加して思ったことは、まず、総会に出席された方の人数が少ない。お偉いさんが少ない。もっとキツイものだと思っていたらなんてことはなかった。私は長い文章を読まされ、あせったけれどケーキは食べられたし打ち上げでお寿司も食べられたので良かった。でもそれまでにいろいろ

な苦労があつての事。皆様ご苦労様でした。

2008年度総会に出席して 山口咲子

姉の意見で、近くのさいたま屋さんで味噌作りを習いバザーで売ることも大切なことだと思った。総会の途中で出たケーキも美味しかった。まあ、議案書に書いてあることを、もう一度読み返してみたいと思った。

2008年総会にてレギュラー!!!

水くくり桃

平成20年4月5日の総会にて。この日を持ちまして、私さくら桃は「ほっとスペース八王子」の正会員になりました。みなさま、ありがとうございます。まずは御礼申し上げます!

さて・・・昨年の活動報告のブレゼンを拝見させていただきました。実に多彩な活動で、今年も、昨年同様に活発に出来れば・・・と思います。そして、メンバーたちが交代交代で熱心にブレゼンされているお姿には感心しました!!みんなそれぞれ個性を生かした発表でした。結局、新人の私は何も言えずじまいでしたが(汗)。

障害者自立支援法・・・今回の総会を通じて、本格的に知ることができました。それによって・・・私たちの負担が増えたり、私たちの受け皿が危うくなったりして、私たちが本気になって考えて、要請行動してこないと、まずいですよね。私もこれから勉強しますっ!!

あと、会員拡大のことも触れたらいいのですが・・・個人的な意見として、もうちょっと若い会員が増えたらな・・・と思います。その方がもっと活発に活動できるし。もちろん年配の方も増えれば、いろいろな人生のことが語れたりすることもできたりして。他にも・・・私たち「ほっと」に課題はたくさんあるそうなのですが、これはみんなの地道な努力で解決するしかないですね!!!

結局、総会において私は・・・おやつのでき運びしかしていませんでした。スミマセン。でも、参加しただけで意義のあった会でした。

新運営委員としての豊言

運営委員になって ディクシー

今年から運営委員になりました。なにをどうしたらいいのやら、言われるままにワークショップ、アリンクと香華販売の仕事をごなしました。主婦業と運営委員はかなりしんどいです。しかもちょっと(ほっ



ガンバリマース! 皆様よろしく

と)を休もつものなら「タクシー横付け」が待っています。もちろんタクシー代は自腹なのでたまったもーんじゃありませんー!なんとか職員の方の会員に對する愛情表現をかいぐへりながら頑張っていると思います。

2008年度の抱負 渡辺広海

運営委員として一年頑張りたい。去年も運営委員

だったが、あまり役に立たなかったの
で、今年こそは頑張るつもりです。様々な行事に参加したり、障害者自立支援法の



皆真剣に議論しました。

の撤廃のために頑張りたい。

新所長に就任して

新所長あいさつ

井田 有哉

今年の4月から、ほっとスペースス八王子の所長を

務めさせて頂きます、井田と申します。ほっとスペースス八王子の職員になって三年が経過しております。昨年八月からは育児休暇をとっておりまして、四月から復職しております。

これまでは堀部代表が所長を兼任しておりましたので、所長の役割と代表の役割について、あまり区別ができなかったのですが、所長兼事務局長ということですので、私の役割は、ほっとスペースス八王子事務局などの事務を統括する、という立場になります。たった三年務めただけです。経験不足は承知しておりますが、皆様にご迷惑をおかけしないよう、精一杯やらせて頂きたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

現在のほっとスペースス八王子の課題は多くありますが、一番大きな問題としては、やはり「障害者自立支援法」ではないかと思えます。この法律によって、今後のほっとスペースス八王子がどのような運営形態をとるのか、全くわからなくなっております。これまでのように、会員の方と楽しくプログラムをしていくというあり方を「障害者自立支援法」は認めません。ほっとスペースス八王子の未来は全く見えないというのが現状です。「障害者自立支援法」撤廃行動を継続しながら、今後のほっとスペースス八王子のあり方について考えていく、というのが今年の方針になりました。この方針にそって、力いっぱい自立支援法撤廃行動のサポートをしていきたいと思っております。また、多くの方がほっとスペースス八王子を利用していただけるように、運営の手助け

をしていきたいと思っております。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

2008年度新体制について

2008年度第20回定期総会において、「ほっとスペースス八王子」の新役員体制が決まりました。

- 運営委員長：植松恵樹
 - 代表：堀部正
 - 副代表：(空席)
 - 所長(事務局長)：井田有哉
 - 運営委員：渡辺広海
 - 運営委員：ディクシー
 - 会計：堀部正
 - 会計監査：宮島正子
- となります(なお副代表については、現在のところ空席とします)。この体制にて、今後一年間ほっとスペースス八王子を運営していくこととなりますので皆様方、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



特集：最近気になるニュースを

チェック！チェック！チェックしましたヨ

箱根小涌園日帰り旅行

去る4月12日、箱根小涌園へ、総勢10名の参加を持って日帰り旅行が行われました。少しばかりあわただしい日程の中、バイキングに温泉とそれぞれ思い思いに楽しみました。参加された皆さん、また実行委員(幹事)のツッチーさん、大変ご苦労様でした。

箱根小涌園日帰りの旅行

ディクシー

日帰りの旅行で箱根小涌園に行つた。私は早速お酒を飲み始めたら、幹事(実行委員)さんに怒られた。むっ。旅行と言えはお酒でしょ！でも一応我慢しました。駅についてバスに揺られ小涌園に着きました。それから待望のバイキング！お腹いっぱい満足してブルヘー！たらたら遊んでお土産買ってたら、帰りのバスに乗り遅れそうになってやっと間に合った。帰りはゆっくりビールが飲めて楽しかったなあ。

ユネッサン日帰りの旅行

渡辺広海

4月の日帰りの旅行は箱根へのユネッサンだった。水着を持って朝早くに集合。ちよっと時間が押しちゃったけれど、無事ユネッサンに着いた。私は1000円で参加できたのでラッキーだった。バイキングでいっぱい食べた。お風呂も最高だった。タオルをもつて行ったけれどユネッサンで貸してもらえた。お土産に両親と吉野家の皆にお菓子を買った。楽しい旅行でした。



Goodな旅行でしたネ

那覇市で委託費が半減へ?!

○障害者ニーズと隔たり/施設委託費
那覇市が半減(沖縄タイムズ4/12朝刊
よりの)

障害者が創作活動などを通して交流する地域活動

支援センターの利用実績が要綱の基準を満たさないことを理由に、那覇市が本年度事業委託費の半減を決めた問題は、障害者の自由な活動の場を目指す施設側と、生産性や効率を求める行政側との間で考えに大きな隔たりがあることが浮き彫りになった。障害者が必要とするセンターとは何か。利用者の目線に立った契約の見直しが求められている。(社会部・座安あきの)

○運営者の責任 実績を重視した委託契約要綱は障害者自立支援法に基づき市が二〇〇六年度に策定。市は三月末、一日当たりの利用人数が要綱の最低基準の五人に届かなかった支援センター「はんだぴあ」に対し、〇八年度は契約しない方針を伝えた。別の支援センター「あごら」については前年度の委託費五百五十万円の基準だった十人を下回ったとして三百万円に減額して契約することを通知した。

これに対し利用者や運営者が反発。市は今月に入り、利用者としての正式登録はしていないものの利用している人をカウントする形で、両センターとの契約更新を決めた。

これにより「あごら」は前年度並みの委託費を維持できる見通し。

一方「はんだぴあ」は委託費が半減するため、「職員の人件費も捻出できない」として前年度並みの契約を求めている。だが市は「利用人数を確保できなかったのは運営者の責任」とし、これ以上の話し合いには応じられないとの姿勢だ。

○潜在利用者も 県内にあるセンターの多くは、

家族や地域が障害者の受け皿の必要性から築いてきた小規模作業所が前身。両センターが利用人数基準を達成できなかった背景には、主に精神障害者を受け入れてきた事情がある。「あいら」の久保田誠施設長は「精神障害者は体調に波があり、定期的な通所を求めるのは彼らの回復を制限する」と話す。

二十歳を過ぎて発病した利用者の女性は「仕事に幻聴が聞こえたり、急に落ち込んだりしてもここならみんなが理解してくれる。少しずつ自信を取り戻しているのに、この場所を失うとまた元の状態に戻るのでは」と不安げ。

あいらの登録者数は市の利用人数の基準を大幅に上回る三十人。実際に利用した人だけをカウントする市の基準では、潜在的な利用者の存在が無視される。久保田施設長は「いつでも利用したいときに利用できる本来のセンターの役割が今の要綱では果たせない」と矛盾を指摘した。

日の丸・君が代強制反対

3・24南大沢養護学園ピラ撒き、4・27都教委包囲ネット総括集会に参加して(編集部)

根津さんの解雇を阻止!!

石原都政下の「ファシズム」を許すな

さる3月24日、約100名の方々が参加して、卒業式での根津さんの君が代不起立を支援するピラ撒きが行われました。あいにくの雨模様でしたが、子供連れのお母さんや、地方からも多くの方が参加され、根津さんの不起立の闘いを応援しました。校門を遠巻きにする公安警察も多数いたのですが、介入を許さず、ピラまきを行いました。根津さん、河原井さんの解雇を許さず、「君が代」を歌わない自由を守るためにほっとの会員もがんばります。また、4月27日、都教委包囲ネット主催で、水道橋のY

MCA会館で行われた総括集会においても、全国から200名を超える方々が集まり、根津さん、河原井さんの解雇を許さなかった闘いの報告がありました。残念ながら、根津さん、河原井さんの「停職6ヶ月」の処分やその他20名の教員の方へ、訓告等の処分が出されましたが、解雇を阻止した闘いはこの間の運動の成果だったと言えます。今後とも気を緩めず闘いの継続を確認して集会を終えました。

《この間の根津先生、河原井先生の闘いの軌跡》

根津公子さんは、卒業式の「君が代不起立」を理由に都教委から停職6ヶ月の処分を受けました。またあきる野学園養護学校に異動になりました。

根津公子さん「停職出勤」へく新たなたたかいスタート

根津公子さんへの「君が代処分発令」は異例で、3月31日当日まで場所も時間も予告されなかった。都心から離れた南大沢養護学校で「免職」が強行される不安から、支援者が学校前に早朝から集まった。

午前9時半、都教委職員2名が到着し緊張が一気に高まる。約80名の支援者による「クビにするな」の大シュプレヒコールが始まった。そして10時半すぎ、笑顔の根津さんが校舎2階に

あらわれ「聞いてよ。クビにさせることはできなかつた!」と大声で叫んだ。その瞬間、支援者から「やっ



雨の中、ピラ撒き貫徹!

た！勝った！と
いう地
鳴りの
ような歓
声が起き
た。あと
は涙だっ
た。処分
は「停職
6ヶ月」
だった
が、まち
がいに
運動側の勝利だった。この日、河原井純子さんの「停職6ヶ月」をはじめ計20人の教員が戒告などの処分を受けた都庁を揺るがした2ヶ月間のたたかいで、「君が代解雇」は止めたものの、根津公子さん・河原井純子さんには停職6ヶ月の重い処分が発令されました。さらに根津さんには「あきる野学園」(養護学校)への異動命令が出されました。4月15日、根津さんは初めて「あきる野」に「停職出勤」を行い、教職員に手紙を渡し、校門前に座った(写真)。



全国から支援者が駆けつけました。

学校側はソフトな対応で、話しかける職員もいて和やかな雰囲気だった。根津さん・河原井さんは停職期間中、この問題を広く世の中に訴え、「君が代処分」を許さない新たなたたかいに挑戦する。
(レイバーネットより転載)

〇立川テント村ビラ配布に不当判決

ビラ配布が住居侵入罪！〜民主主義を踏みじった最高裁判決

4月11日、最高裁で立川自衛隊官舎ビラ配布事件の判決があった。被告側の上告が棄却され、ビラ配布が住居侵入として3人の有罪(罰金刑)が確定した。今井功裁判長は「表現の自由は大事だが、他人の権利を侵害してはいけない」と判決理由を述べた。憲法の番人であるはずの最高裁が自ら、憲法・民主主義の基本理念を踏みじる内容だった。被告の高田幸美さんは「ビラ配布だけで4年間も被告人と言われ、75日間拘束された。その結果が小学生の作文みたいな判決だった。これと同じ目に遭う人が一杯出てくると思うと、到底認められない」と怒りに震えながら語った。(レイバーネットより転載)

ガンダム00SS 特集

ほととの会員であり、また機動戦士ガンダムの愛好家かつ研究者でもある渡辺広海氏より「機動戦士ガンダム00(ダブルオー)」のショート小説(SS)の寄稿がありました。すでに30篇を超えて寄稿されていますので、ほととニュースにて紹介させていただきます。渡辺広海氏による「機動戦士ガンダム00(ダブルオー)」創作ワールドをお楽しみください。

《作者より》

これは毎週土曜、午後6時から放映されているアニメ、「機動戦士ガンダム00(ダブルオー)」の外伝的ショート小説です。一生懸命書いたので、どうか読んでください。特にロックオン・ストラトスというキャラが好きです。ちょっと腐女子視点も入っていますが、その辺はご容赦ください。

●機動戦士ガンダム00

(ダブルオー)とは

株式会社サンライズが製作しているガンダムシリーズの最新作です。シリーズ構成にガンダムオタクで有名な黒田洋一さんを起用。キャラクター原案に根強いファンを持つ高河ゆんさんを向かえ、2007年10月より放映が開始されました。ガンダムシリーズ初の2部構成という形をとっており、現在は第1期が終わり、2008年10月からの第2期の放映が待たれています。女性に熱狂的なファンが大勢おり、大変ヒットしている作品です。



登場人物紹介 - 刹那・F・セイエイ

ガンダム00(Wオー)

ショートストーリー特集 by 渡辺広海

《主要登場人物》

◆刹那・F・セイエイ

主人公。ガンダムエクシアを駆る。まだ16歳の少年。テロリストであり、過去に両親を自分の手で殺した経歴を持っている。クルジスという国の出身。14歳のときにソレスタルビーイングに拾われた。

◆ロックオン・ストラトス

ガンダムマイスターのリーダー格である24歳。長距離射撃を得意とするガンダムデュナメスに搭乗する。過去にテロリストに家族を殺された経験を持つ。



登場人物紹介 - ロックオン・ストラトス

◆アレルヤ・ハプティズム

ガンダムマイスターの一人。変形機構を持つガンダムキュリオスを駆る。19歳。ハレルヤという人格を内に秘めており、人革連の超兵機閥出身。子供のとき、生き残るために友人を射殺した経歴がある。

◆ティエリア・アーデ

ガンダムマイスターの一人。ガンダムヴァーチェを駆る。ガンダムマイスターとしての使命をもっとも大切にしており、機事項であるヴェーダにアクセスできる。過去、年齢など、詳しいことは一切不明。美少女のような風貌を持っている。



登場人物紹介 - アレルヤ・ハプティズム

◆リヒテンダールとクリステイナ

「リヒティ、リヒティ、起きなさい」



登場人物紹介 - ティエリア・アーデ

その声でリヒテンダール・ツエーリは目を覚ました。プロレマイオスの操舵席で、うっかり眠ってしまったらしい。無理もない。ここ4ヶ月戦闘の連続で、プロレマイオスは不眠不休の働きをしてい



リヒテンダール・ツエーリ

たからだ。リヒティは自分を起こしてくれた相手に目をやった。

「クリス、有難う」

「お礼を言われることのほどじゃないわよ。リヒティ、そんなに疲れているなら自室に戻って休んだら？」

そんなことはできないと、リヒティはクリステイナに言った。

「トレミーを操舵できるのは俺しかいないっすからね。人任せにはできませんよ」

「そっ。でも無理じゃないでよ。いざというときに寝てられたりしたら皆が迷惑するんだから」

クリスは年上の相手に堂々と説教する。

「そっだー！」

「えっ？」

クリスの言葉にリヒティは驚いたような返事を返

ガンダム00 (Wオー)

ショートストーリー特集 by 渡辺広海

した。

「リビティ、元気が出るように今からお弁当作ってきてあげる」

「ええー! そんな、いいですわ」

「遠慮しない。こういうときの女の子の好意はありがたく受け取っておくべきよ」

クリスは「ごやかに」

「判りました」

確かに疲れているのは本当だし、お腹も空いている。クリスの申し出は有難かった。

「じゃ、ちょっと席を留守にするから。2度寝しないでよ」

「わかってるっす」

クリスはプロレマイオスのブリッジから食堂のほうへ体を流した。

数十分後、クリスは小さな包みを持って帰ってきた。今ブリッジに居るのは二人きり。時刻は深夜を越えてとうに過ぎている。

「はい、これ」

「あ、おはよう」

リビティは包みを開けた。そこにはクリスマス特製のサンドウィッチと野菜サラダが入っていた。

「ごうかな」

足りなかつた?」

「いや、じゅうぶんっすよー」

リビティ

はうれしそうに言う

と、サンドウィッチをほおばり始めた。

「美味しい!」

「でしょ。意外と家庭的なんだから、私。はい、飲み物」

「気がきくっすね」

クリスから「コーヒを手渡され、リビティは食事に専念した。

「ああ、美味しかった。」馳走さまっす」

「お粗末さまでした」

クリスの言葉にリビティは反論する。

「ぜんぜんお粗末じゃないっすよ。とっても美味しかったっすよー。できたらまた食べてみたいなく、なんて思ったり」

その言葉に、クリスは思わず頬を赤くした。

「そ、そっつ」

「はいっすー!」

「にっこり笑うリビティ。」

「じゃあ、今度また作ってあげるね。その代わりにえっ?」



クリスティナ・シエラ

「今度地球に下りる機会があったら買い物付き合っ」

クリスの思いがけない誘い「、リビティも頬を染める。」

「俺でいいんすか。アレルヤじゃなへて」

「何でそこでアレルヤの名前が出るのっ?」

「いや、その……」

リビティはこの前の戦いで「レミー」が危機に陥ったとき、クリスがアレルヤの名を叫んでいたのを覚えていたのだ。

「とにかく、そういうことだから。あ、お茶も付き合っ」

「ソレってデートみたいっすね」

「……そ、そっつかな」

またクリスが頬を赤く染める。

「楽しみにしてるっすよ、俺」

「うん。私も」

そして二人はそれぞれの任務に戻るのだった。

F N

ロックオンとフェルトのバレンタイン

フェルトは悩んでいた。明日……というよりもあと数時間でバレンタインデーだ。ロックオンにはなにをあげたら喜んでくれるのだろうか。

普通にチョコロートがいいのか、それともこれからロックオンに何が好きか聞いて考えるか。別に恋人になって欲しいとか、そういうわけじゃない。だ

ガンダム00(Wオー)

ショートストーリー特集 by 渡辺広海

だ、ロックオンに自分の気持ちを伝えたいだけ。返事なんかどうでもいい。

「どう……」

じゃあチョコレートにしよう

と、フェルトは自室の冷蔵庫を開け、大分前に買っておいたチョコレートを取り出した。後は湯煎で溶かしてハート型に固めて冷やせば終わり。

フェルトはロックオンへのメッセージをカードに書き始めた。

「ロックオンへ。この間はありがとう。本名を教えてくれてありがとう。私が落ち込んでいるときに慰めてくれてありがとう。ロックオンは本当に誰にでも優しいね。だからマイスターのリーダーが出来るんだと思う。これからもよろしくね。そして頑張って フェルトより」

自分の両親もマイスターだったフェルトは早くに両親を亡くしている。だから人一倍愛情に飢えている部分もあった。フェルト本人は気付いていないが、性格的にも引っ込みじあんで、あまり積極的

に人と関わろうとはしない。ソレ

スタルビーイングに拾われなかったら、今の自分はないだろう。

チョコ

レートが完全に溶けたので、フェ

ルトはハート型の型にチョコレートを流し込み始めた。あとは冷蔵庫で冷やせばいい。

「ロックオン、喜んでくれるかな」

甘いものが嫌いだったらどうしよう。そう思いつつも、ロックオン本人に、好きなものはなにか聞くほどの勇氣はなかった。

とりあえず、チョコレート作りが終わったので、フェルトはベッドに入った。明日渡そう、そう考えて。

翌日。

フェルトは早速出来あがったチョコレートにラッピングをして、ロックオンの部屋を訪ねた。

「ロックオン、いるっ」

すると中から返事がした。

「ロックは開いてるぜ。入ってこいよ」

フェルトはロックオンの部屋の扉を開けた。ロックオンがいつもの気さくな表情で迎えてくれる。

「どうした？ フェルト」



フェルト・グレイス

「うん……」
なかなか切り出せない。フェルトは思いきって後ろ手に持っていた包みを差し出した。

「これ、ロックオン」

「俺」

ロックオンはちょっと驚いたような顔をした後、笑顔を浮かべて包みを受け取った。

「甘いもの嫌いだったらごめんね」

「いや。そんなことはないぞ。でもどうして今日俺」

「……」
フェルトは恥ずかしげに言った。

「今日はバレンタインデーだから」

「……あ、そうか」

ロックオンも答えがきこなくなると。

「別にお返しとか返事とかはいいの。ただ受けとって欲しかったただだから」

「フェルト……」

「じゃあ」

ロックオンは扉に向かおうとしていたフェルトの腕を挿んだ。

フェルトが思わず、え？ という表情になる。

ロックオンは黙ってフェルトを抱き寄せると、その頭を撫でた。

「あがどう、フェルト」

そしてフェルトの頬に小さなキスを落とした。

フェルトの頬が真っ赤に染まる。

「……ロックオン」

「今はこんな返事しかできない。許してくれ」

ガンダム00 (Wオー)

ショートストーリー特集 by 渡辺広海

「許すだなんて……」

フェルトは言葉を詰まらせた。

「俺たちは今、戦争根絶の為に介入行動中だ。だから、全てが終わったらちゃんと返事をする」

「ロックオン……」

フェルトはロックオンの腕の中で小さな笑顔を浮かべた。

「そうだ、フェルト。笑っている的可愛いぞ。いつもそうしている方がいい」

「うん」

そしてフェルトはロックオンの部屋を後にした。

渡して良かった。その思いを抱きながら。

F I N

刹那の独り言

刹那は子供扱いされるのが嫌いだった。だからいつも年齢よりも大人びた態度をとっている。でもマイスターの仲間、特にロックオンは刹那を子供扱いしている。この前ミルクを奢って貰ったときは正直腹が立った。でも刹那が16歳というのは事実。

そして刹那はガンダムエクシア

に乗ることによって、自己のアイデンティティを保っている。それほど、刹那のガンダムに対する思い入れは深い。だから戦闘中に「俺はガンダムだ」とまで言うってしまうのだ。エクシアに乗っていなかったら自分はクルジスが滅んだようにどこかで野垂れ死にしていたらどう。ソレスタルビーイングに偶然拾われなかったら、今の自分はない。たった14歳でガンダムマイスターとしての資質を認められ、刹那はソレスタルビーイングの仲間になったのだ。

でも同じガンダムマイスターやブトレマイオスのクルーなどと打ち解けることはない。刹那はいつも一人だった。今、気になるのはマリナという女のこと。なぜ気になるのかは判らない。ただ、マリナが刹那を気にかけてくれているのは事実だ。アザティスタンの皇女が一介のパイロットに目をかけてくれるのはありがたい話なのか。刹那は正直うっとおしかった。しかし、マリナのすがすがしいな目をみると、刹那は何ともいえない気分になるのだ。

次の出撃がおそらく連合軍と戦う最後になるだろう。刹那はマリナに向けて遺言を書き始めた。そしてその淡々とした文面をマリナのプライベートアドレスへ送った。

「よう、ごつしたっ」

ロックオンが刹那の部屋を訪ねてきた。

「ロックオン・ストラトス」

「いいかげん、そのフルネームで呼ぶの辞めてくれないか。仲間になってからもう2年もたつのに、お

前は初めて会ったときと全然変わっていない。もう少し打ち解けるよ」

「余計なお世話だ」

「はいはい、判りました。でもいつも気を張り詰めているとつかれるだけだぞ。少しは年相応のこともやってみたらどうだっ」

「そんなものに興味はない」

「はいはい、判りました。刹那は本当にガンダム馬鹿だな」

「悪かったな」

刹那がぶっきらぼうにいう。ロックオンは降参だと両手を上げ、刹那の部屋から出ていった。いつもこんな風にしか仲間と話せない。それが刹那ゆえでもあるわけだが。

刹那は気分を落ち着かせようと、ガンダムの格納庫へ向かった。エクシアを見ていると心が落ち着く。刹那は私服のまま、エクシアのコクピットへ体を滑り込ませ、そっと操縦桿を握った。エクシアは刹那のもっとも得意とする近距離戦の機体だった。今はトランザムシステムという切り札も持っている。しかしトランザムに頼りすぎるつもりはなかった。自らの力とエクシアのパワーを100%引き出してこそガンダムマイスターだ。だから刹那はいつも戦いに臨むとき、コクピット内で瞑想する。そうすれば落ちついて戦える。

今はユニオン、AEU、人革連の連合軍がガンダムマイスターたちへ襲いかかっている。次の出撃もすべくるだろう。刹那はその前に少しでも体を休め

うつつと、エクスシアの「コクピット」の中で眠りについた。
遺言を読んでくれたらマリナはとう思うだろう。
ちらりと彼女の姿が脳裏に浮かんだ。いつも刹那を
心配そうに見詰める瞳。なぜあの女のことか気になる
のか。

それは刹那自身にも判らなかつた。
いまはただ、静まり返った「コクピット」の中でゆっ
くりと瞳を閉じる。

今度の出撃は敵しいものになるだろう。それでも
刹那は戦うつもりだった。でないとガンダムマイス
ターとしての誇りを失う気がした。
だから刹那はエクスシアにしか興味か
ないのだ。

いつの間にか、刹那は深い眠りに
落ちていた。

今度の戦いで大きな犠牲を払うこ
とも知らずじ。

F I N

《タヤンさんのコーナー》

ディオニユッソスの夢

タヤン

死んだ魚が泳いでゆく

「コトコトと音を立ててステンレスのみぎを

悪臭を放ちキラキラ光るうづろをこすりつけ

死んだ魚が泳いでゆく

空は青くヒカヒカと太陽が黄色く笑っている

水に流され 水に流され
どこまでゆくのだろう

骨は踊る ラララ ラララ

肉は腐敗してもじぶとくへくっついていぬ

魚のしっぽはにこった水をただきしびきをあげる

死んだ魚が泳いでゆく

どこまでゆくのだろう

それを私は知らない

文学散歩 芥川龍之介に思うこと タヤン

日々思ひごと

詩・エッセー・近況報告など……

…猪熊の爺は暗に怯えて啼く赤子の声の中にかすかな苦悶をつづけながら、消えかかる松明かりの火のように、静かに息をひきとったのである。

このように死にあっても新しい生にあえば安らかに息を引き取る。たとえ自分の子でなくとも私たちには新しい生はどこにでもある。破骨細胞が骨芽細胞に取ってかわられるように古い骨がなくなり新しい骨ができるかのことだ。これが、生命の循環である。芥川は人間をみつめ、「死」を見つめることで「生」を描き出したのである。骨ばかりでなく

私たちの細胞は毎日死に続けているし、生まれ続けている。猪熊の爺は人間的にはこすからい卑怯者として描かれているがそんな爺が「犯しがたい敵しさに輝いているように

動物たちは皆、死を恐れている。死が怖いからだ。本能的に生きようとしている。自殺を除いて。芥川はどつ考えたか。その「コトコト」は「偷盗」にある。死ぬ。死ぬとは何だ。…こんな取りこめのない考えが、暗の中に鳴いている。数蚊のように四方八方から、意地悪く心を刺してくる。…形のない気味の悪い「死」が辛抱強く、丹塗りの柱の向こうにじっと自分の息をうかがっているのを感じた。「そして」そっと赤ん坊の指に触れた。…老人の顔が、そのときばかりは平生と違った犯しがたい敵しさに輝いている。うな気がしたからである。「この子はわしの子じゃ

なるのである。そんな作品を書いた芥川が自殺したのだが、萩原朝太郎は「他殺である」という。国家に殺されたのであると…。もちろん間接的である。戦争へと向かっていく国家の中で萩原も「永島」を書いた後、筆を止めた。「偷盗」以外の作品でも「死」を描く事で「生」を描いていた人間が自殺するだろうか？はなはだ疑問である。「河童」を読めば、表現の自由のなくなった世界でアイロニーを加えて苦しんで書いているのがわかるだろう。ディオニユッソスのな(注1)彼の作風は今でも輝きを放っている。

注1:ギリシャ悲劇の誕生

歌について

タヤン

私は歌うことが大好きだった。高校の時、1年間だけ合唱部にいた。都の代表として、NHK音楽コンクール全国大会(長崎にて)に出場し、金賞を取った。その時私は東京に残っていた。補欠だったからだ。しかし、私は歌を楽しんでいた。上手くなっても。歌が好きだからこそ歌を強制させられるのはいやだ。君が代は私にとっては、ハイル・ヒットラー、なのだ。国歌を歌わせられるのは苦痛だ。南大沢で不起立をしている人(根津公子さん)を応援するため、NHKコンクールで金賞を取った「から松」を歌った。まわりからも反応があった。歌は自由でなければならぬ。詩を歌いたくて歌いたくて歌うのでなければ、と思う。歌は芸術なのだから。



近況報告

T・H

今日は私の誕生会をしてくれるという電話を。uさんからもらったので、11時30分に家を出て久しぶりにほっとスペース八王子まで来ました。最近やはり引きこもりの状態で、なかなかグループホームから出られない暮らしが続いています。1週間に1回は、玉川上水の青木さんの畑に援農ボランティアに行っています。もう3年目になります。

こちらの方はいつまで経っても農作業の全体像がつかめません。冬はほつれん草やねぎの収穫やスパーに出荷するまでの商品化というか、ほつれん草やねぎをきれいにして売り物の形にするまでの作業があります。今年の冬はずいぶんサボったので、あまり働いたという記憶がありません。ボランティアを始めた年は車に乗せてもらって、よく埼玉のさといも畑までいも堀りにでかけたものでした。春になって、今はぎゅうりやトマトの苗を植えつける仕事の手伝いをしています。このボランティアの仕事は、私の父親にアドバイスをもらって立川市の市報を、何かできること仕事がないかと探しているうちにみつけたもので、そのころはほっとにも通っていませんがパソコン等苦手な事も多く、友達もあまりできなくて、職員以外のメンバーとあまり口をききませんでした。そのうち、Hさんが実家に帰ったり、Tさんが死んでしまったり、クーさんや久嶋さんがほっとにあまり来なくなったり、職員もヤスパーさんやY・Uさんを除いては知らない人が新しく入ってきて、ほっとも変わっていくと、時の過ぎ行く速さに驚いていました。今後ともいろいろ変化はあると思うが、また今後ほっとのいろいろな活動にも参加したいので皆さんよろしくお願ひいたします。

書道の時間に

花原 ひろし

人がもたらうエネルギーって、いろんなもらい方があるんですね。2月のあるある、ほっとスペース

習字の時間(書道教室)に参加

しました。横に座っていた人が、秋山健太郎さんでした。私は心の中で「ヤッター」と叫びました。なぜなら、初めてほっとスペース



ほっとにて

に見学に来たとき、壁に貼っていた秋山さんの詩を読んで心引かれていたからです。

ワクワクしていると、私の横で秋山さんが毛筆で詩を書き始めました。私は思わずすづられて、自分でも浮かんでくる言葉をポツリポツリと並べていました。ずっと前に少しだけ書いたことのある詩。もう何年も書かなくなりました。もう二度と書けないのかなと諦めていた詩。なに言葉が連なって形になっていく。つたない言葉のつたない流れだけど、それでもむぎだされていくことの不思議。ああ、秋山さんから力をもらっているなあーと言う実感がありません。隣に座っていると何か伝わってきて、触発されていく。かわりってほんとに不思議です。ただそこにいるだけなのに、人からもらう「何か」があります。部屋の皆さんの和気あいあいの中で私は、心地よく満ち足りていました。

水仙 花原 ひろ子

爪木崎の水仙は

終わってしまったのだろうか

水仙は 母の好きな花

私が10才の反抗期に

さよならを言わずに

死んでいった人

愛と怒りと絶望

知らず知らずにあった

そんな思いを

もう そろそろ手はなごうね

爪木崎に行こう

爪木崎に行くよ

あなたの香りに

ただ包まれて 行くよ

つながる

そこにあるものは

ただそこに

ただ そこに置け

そこにあるものは

そのままに

ただ そのままに見よ

耳を澄まして 聞く



音のない音

つながって行く

会員である秋山健太郎氏は、20歳前後に詩の創作に熱中し、その後詩集「空の葉」を出版しました。氏の許可をもらい、ほっとニュースにて紹介させていただきました。ぜひ瑞々しい感性の世界をお楽しみください。

《詩集「空の葉」》

しモノネードの月

変にあかるいよるの光

月という 変にあかるい

しモノネードは掌夢のうしろ

あたたまっている

月という

かすむ対象物

しモノネードを溶かすもの

あたたまっている

月という 変にあかるい

森の陰り

祭りの太鼓

聞こえる村人

くしを流した髪

変にあかるい

水辺の馬

不気味にいろぎめた舌が

ぼくの心臓のうえで ぴらぴらしている

暗い時を薇のようにまきこんで

黒い光を吸っている

矢取められた武将の馬が

臉を川の流れに洗わせている

葦の茂みの間で文字板が

やがてくる黎明を抱き込んでいく

みな血に吸われそっと萎えていく刻を

心臓のうえで静かに笑っているぼくの舌

新会員自己紹介

入団発表

なぐら桃

☆☆☆ ぶろふいぐる ☆☆☆

登録名: なぐら桃

生年月日: 1974年9月11日

出身地: 東京都昭島市

血液型: O

ドラフト: 2008年 / 希望枠入団

新会員で～す。よろしくお願ひしま～す。 自己紹介コーナー

入団理由：遡ること…当時恩方に在っていた約9年前より、某ネットによって勧誘され、たびたびゲストとして夕食会等に参加。

ほっとHPにも書き込み多数。5年間千葉に転居して中断後、08年から事情により実家の昭島へ帰る。近くにある他の作業所やデイケア施設も検討してみたが…熱いハートの個性派メンバーと、のびのびと活動できる場に魅力を感じ入団を決意！

経歴：都立高校卒ー都立各学校及び市立小中学校の事務ー長期休職(07年～)ーほっとスペース八王子(08年4月～)

ポジション：PC教室(自称中級者)、夕食会荷物運び及び調理、「障害者自立支援法撤廃」運動、護憲等

その他：とにかくプロ野球観戦が生甲斐！特に横浜ベイスターズの#20木塚投手に対してはアイドルの追っかけ状態。そして14年間アマチュア吹奏楽演奏家を経験(数年前に演奏家を引退後、解説者に転向)。

いろんな意味で変則かつ強烈な

キャラクターであるため、33年間波乱の人生を歩んできた。病歴16年目、医療保護入院も1か月ながら経験あり。

☆☆☆☆ ルーキーの意気込み ☆☆☆☆ PC関係：デザイン性の高いサイトの作成に挑戦。ほっと内に自分の「公式」サイト設立。

初心者に対して指導できる能力をつける。(特にワード及びエクセル)

夕食会関係：食材を選ぶセンスを身につける。いろんな料理の調理方法を学ぶ。

自立支援法撤廃及び護憲運動関係：とにかく積極的に学習会等に参加して、運動の趣旨を学び、活動に貢献する。

その他：最大の課題である感情制御難克服。協調性を身につける。学校事務・福利厚生関係職務の経験を役立てるため、障害年金の制度等を学習。

とにかく、いろいろな場数を経験させていた。だき「新人王」を目指します！



横浜球場へ行ってきました！

《自己紹介》

朝野 善果一 (あしやのよかいち)

心歪まず、濁らず、不足感せず、心整い、目的の為なら苦勞を苦勞と感じない研ぎ澄まされた心。どんな人のこころも呑み込める器。苦しみから遠ざけ、嬉しい気持ちになる事を夢見てます。

…怒られてばかりな自分ですが…

たぶん僕はわがままでありたいと思っていながらみんなから好かれたい、嫌われたくない、自分の存在を嬉しく思っしてほしい。

だから、もっと、もっと、相手(相対する人)の存在を嬉しく感じ、人を嫌わない人になりたい。そんな心が同居しています。心鎮まれ。まあるく。全ての全てが善くなるように、良くなるように。

《賛助会ニュース新設にあたって》

ほっとスペース八王子事務局

いつもほっとスペース八王子へのご寄附・ご協力、誠にありがとうございます。

先日の賛助会総会の中で、これまで以上に賛助会活動を活性化するために、賛助会通信を定期刊行していかなければならない、という提案がありました。そこで、これまでは賛助会活動の報告の場として、

賛助会コーナー

賛助会ニュース (2008年6月号)

賛助会通信の発行をしておりますが、今後はほっとニュースの中で賛助会のコーナーをつくり、順次ご報告していきたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

また、これまでほっとスペース八王子へのご寄附については、ほっとスペース八王子賛助会が郵便振替の窓口として機能しておりましたが、「ほっとスペース八王子」と、「ほっとスペース八王子賛助会」の名称が整理されておらず、わかりにくいという指摘を頂戴いたしましたので、この場を借りて説明させていただきたいと存じます。

ほっとスペース八王子賛助会は、ほっとスペース八王子設立当初から、資金面の援助を中心に活動してきました。東京都と八王子市からの補助金だけでは、運営費をまかなうことができない部分も多く、現在でも賛助会の支援が不可欠です。これまで、ほっとスペース八王子へのご寄附はほっとスペース八王子賛助会で管理されてきました。先日の総会において、今後

も同様に、ほっとスペース八王子へのご寄附は賛助会で管理していくという承認がされましたので、皆様にご報告申し上げます。

また、今後の郵便振替用紙については、賛助会費・ご寄附・ニュース購読料という項目を設けますので、皆様のご寄附の主旨にそった項目に印をさせていただければ幸いです。これからもほっとスペース八王子、並びにほっとスペース八王子賛助会をどうぞよろしくお願い申し上げます。

第四回賛助会総会開かる

五月十三日に第四回賛助会総会が開催されました。当日の参加者は賛助会員6名、他の賛助会員の方は委任ということで、総会は成立しました。

はじめに、総括としてこの間の賛助会活動が振り返られました。賛助会員の拡大・寄付金獲得という方針が挙げられていましたが、結果的に賛助会員の数、寄付金ともに減少しているという報告がありました。また、賛助会通信の発行という方針がありましたが、創刊号の発行のみにとどまり、定期的に発行されなかったという報告もありました。

次に、決算として、賛助会からほっとスペース八王子「一般会計」への補てんについて確認がされました。補てん内容は、韓国研修旅行及び日帰り旅行の交通費助成が中心になっている、という補足説明がありました。

そして、今年度の役員案として会長・会計が承認されました。会計監査については、これまで監査をされてきた方が多忙ということで、現在新たな会計監査の方に依頼をしている、という現状報告がありました。今年度の活動方針についても確認されましたが、賛助会員の拡大・寄付金の獲得について、集中的に取り組んでいくという方針があげられました。具体的には、今年度からほっとスペース八王子の会員になられる方の家族について、必ず賛助会員になっていただく、ということや、賛助会通信をほっとニュースのコーナーとして、なるべく毎号とりあげていく、ということなどが承認されました。

また、賛助会費については、これまで毎月一〇千円以上、一年で一〇万円以上の会費を納めていただいていた方が、より多くの方に参加していただけるよう、毎月一〇五百円以上、一年に五千円以上の賛助会費を納めていただくように決まりました。

最後に、ほっとスペース八王子の活動をより一層サポートしていただけるよう、賛助会活動を活発にしていこうという確認のもと、閉会致しました。



第4回賛助会総会に参加して(写真撮り忘れて古いものを載せました)

★天皇制と「精神障害者」差別

植松恵樹

明治天皇の「行幸」に、「行幸御警衛心得」という規定があったという。1885年だから120年以上も前のことである。その「第31条」はこうだ。

「酔狂(酔狂)発狂人等不体裁ノ者アラハ脇道へ退力セ不都合ヲ生ゼザル様注意スベシ」

差別的でひどいと思うが、後々の国家の政策を考えば、「のどかな」内容とも言える。そして、1974年、34年前のことである。昭和天皇夫妻は岩手県の植樹祭へ「行幸啓」したときの

ことである。岩手県警はその警備記録を作成した。その中にはこう記されている。

「火薬類等危険物の取り締まり、精神障害者の実態把握と防犯措置の徹底を期した」。

つまり、こういう事ではないのか。120年以上も前から現在に至るまで、国家(天皇制)や警察は、精神障害者に対して予断と差別をもって「危険人物視」しているということである。またこうも言われている。「現実に皇族が来る地方で保健所に対して『精神病』者の情報を渡せという要請があるのは恒例である」(長野英子「精神医療」1990年)

一方でこんな意見もある。「彼らくらい天皇を尊敬している人は世の中にちょっといないから、危険

なんてあるはずはないんです」。

「彼らは共同幻想にもっとも侵食されている人たち、無防備な人たちなんです。排除されているからこそ、幻想の中心である天皇や強い巨人(シャイアンツ)にすがろうとしていくのです」(精神科医 浅野誠)

では、いくつかの事件をあげて、病者と天皇制を考えてみよう。

1. 元女長官の不敬事件

薩摩藩国父島津久光の孫ハルが1936年、不敬容疑で逮捕された。宮内省で女長官であった。祈祷

《特別寄稿》

天皇制と「精神障害者」差別

植松恵樹

師らとともに「昭和天皇は、前世の因縁によって近く死ぬ。自分らは弟の高松宮を擁立したい」と語ったという。戦前の発言としてはすごい。

2. 虎ノ門事件の難波大助氏

1923年、皇太子(昭和天皇)をステッキ銃で撃った事件。ケガはなかったが死刑となる。マスコミはこう述べている。「私は今度の不敬漢が願わくば狂人であればよいと思うが、万が一主義者らの所業であったならば…」(東京日々新聞)

3. 現天皇の成婚パレードに石を投げる。19歳の長野出身の男性

これ以外にも皇室関係の事件は様々なものがある

のだが、共通しているのは、事件が起きると政府や警察関係は手を尽くして現在でいう「精神鑑定」を無理やりやろうとしていることである。たとえそれで「無罪」になってもよいというくらい徹底している。それはなぜか。そこには恐るべき差別意識、予断、偏見があるといわざるをえない。その論理はこうなる。一般国民は天皇や皇室には尊敬の念をもっているのであって、不敬罪(戦前なら)を犯したり、事件を犯すのは正常な人ではないのだ、と言いたいのだろう。まさに「狂気の捏造」が行われているのだ。

だ。事実、皇室関係で事件をおこしたほとんどの人たちが

が「精神分裂症」(当時)などの病名をデッチあげられている。本人が病気を否定してもおかまいなしなのである。思想的に言えば、明治から大逆事件などをデッチあげて多くの人々を死刑台へ送り込んできた、天皇制国家権力と闘うということはきわめて先進的で「正常」な事業だと私は考える。そしてこれらのことから「病者」が国家に対して、どのような思想を持つべきかもまた明らかであろう。

—そして現在—

私はここで100年前どうだった、という話をしたいのではない。すでに見てきたとおり、国家とし

ての「精神障害者」に対する政策はいささかの揺るぎもない。そして現在「障害者自立支援法」をめぐって大きく争われているのは、国家財政のために「障害者」の生活と権利を奪うことを許すのか、ということである。本来なら、病院労働者、作業所労働者、家族が一丸となってこの法律に反対すべきであろう。私の持論は、「国家にとって精神障害者対策は治安対策である」ということだ。これはそのことを認めるということではない。逆にこれと闘い、生活と権利を守る福祉政策とすべきであるということだ。作業所などの今後の方向性についても、国の政策に依存して何らかの展望を見出すべきではなく、病者の立場に立ち、共に闘うなかでその展望を掴み取るべきだと考える。

※「行幸」(ぎょうこう) 天皇が外出するときに使う言葉。

※不敬罪 戦前天皇及び皇族に対するあらゆる罪。厳しく罰せられた。

参考資料 「狂気と王権」 井上章一(講談社学術文庫)

○書評 「分断時代の法廷」

韓 勝憲(岩波書店)

我々はすでに韓国の労働運動、民主化運動の歴史として「全泰壹」(チョン・テイル)(趙 英来氏)、や「鉄条網に咲いたツルバラ」(パク・ミンナ氏)などから多くを学んでいる。この2冊は民主労総結成へ至る前史として独裁下厳しい弾圧のもとに命を

かけて闘った人々の記録である。チョンテイル氏は言うまでもないであろう。ツルバラは、女性活動家の生々しい記録である。弾圧と獄中でもその節(思想)を曲げず、生きた人々の生の声が聞こえてくる。セクト的な人々など特に学ぶべきであろう。

そして、この本である。著者の韓氏は検事から弁護士となり朴独裁下で多くの政治裁判の弁護をした人である。そして民主活動家であり自身何度もとらわれ獄中生活も送っている。組合活動家もたしかに、弾圧で厳しい闘いを強いられしたが、この本の裁判の被告たちはそれ以上の闘いを求められた。独裁に反対し、民主化を求める当然の運動に対して、死刑、無期などの重刑攻撃を受け続けてきたのだ。金芝河氏、金大中氏、そして大学教授、文学者、宗教者、無名の学生、労働者とあらゆる人々が弾圧を受けている。実際に多くの人々が拷問され、死刑となっている。この本では、著者が弁護を担当した40以上の事件を扱っている。日本でも知られている事件も多くとりあげられている。現在の韓国民主化が、60〜80年代にわたり、闘ってきたこれらの人々、そして無名の労働者、学生、市民の人々によって成し遂げられたということを我々は知ることができる。いや学ぶべきだ。そして、民主労総との連帯として11月韓国集会に参加するのであれば、日本での運動体のあり方など反省すべき点は山ほどあるのではないか、ということを強く感じる。(K・U生)

《読者よりの投稿》

理想の国家を早く実現したい

一読者より

現状では、数年に一度投票できる選挙において、候補者を記入するのみである。選挙公約、マニフェストに賛同するのと時折集会で質問や意見を言えたり、これもまた時折手紙、電話、メール、ホームページの書き込みをしたり、投書したりする程度の意思表示しか、あとアンケート調査に答える程度しか許されていないのである。国民の意見は選び賛同するだけで、どこかに押し込められていて、真に国民の意見を代表するとは言いがたい政治家によって国家が運営されているというのが、ほとんどの国々の問題点であろうと推定される。

そこで改善である。まず、国政なら国民意見提出法、地方自治体なら地方自治体の名称を冠した意見提出法を成立させる。内容は、年一回、一人五つの自由意見用紙に書くか、音声、手話、ビデオ、点字、外国語、方言などで、それぞれ提出するというものである。その際、能力的に見て小学校一年生から対象にしていくのが良いと思います。政治家は一回につき五十から百の自由意見を提出します。天皇家等ご皇族の方々の意見提出については、国民に広く意見を求めたり、直接お伺いを立てればよいと思われまます。そうすると大変膨大な数量になるため、多くのパソコンの使い手を募ります。提出期間も三ヶ月くらいもうければよい。集計期間も三ヶ月から半年

もつければよい。結果が出て、同じ意見が千も集まれば政策として実施すればよい。大事な判断には政治家の意見を聞くもよし。次にそれらのたぐさんの政策の実施費用であるが、これもまた今の税収入、税外収入、国債収入ではとてもまかないきれないであろう。そこで改善である。数千年続いた税制度と国債発行を、税制度は関税だけ残してやめるのである。かわって中央銀行(日本では日本銀行)と財務省印刷局から直接永久に国家(国庫)に無限に資金の供給を受ける方式につくりかえるのである。もう一つ書けば、理想(希望)は各国同時に行うことである。話を戻すと、日本の数の単位は現在は億があり、その二万倍に兆という単位がある。ところが広辞苑にも兆の一万倍が京であり、さらにその上一万倍に垓という数字が記載されているのである。これらを使えばいかなる国難も解決し、又世界中の人々六十五億人の出生から他界までの暮らしを永久に思いやり豊かにもできるし、すべての夢をかなえさせることも可能になるのである。政府や地方自治体の必要とする資金はいくらでも無限に中央銀行や財務省印刷局が作り出し供給してゆくのである。インフレーションの問題はきつと起きないのである。皇室、国民富裕法を作るのである。パチンコ通いの人数、株式投資家、宝くじ、ナンバース、競輪、競馬、競艇、賭けマージャン、賭けポーカー等に熱中して必死で金儲けをしている人々の人数を数えてみたら、どれだけ必要且つ重要な法律であるかが良くわかると思う。出生時から死亡時まで全員にお金を支給する法

律である。東京都の物価、住宅事情を考えると、一人月々三百万円、地方の物価、住宅事情を考えると、一人月々百万円と数字が出る。天皇家他(皇族は、テレビに出る人で一番高価な身なりの愛知県にお住まいの吉川さんが約百億円の身なりなので、一人月々百億円支給するのである。世界中の人々の夢をかなえさせたいのでいろいろと書きました。世界同時に実行すれば、武器提出法で世界平和も実現できるのである。根回しが必要である。それには実施年月日を決めることである。まだいくつか書きたいことはある。後日にしよう。一言付け加えれば、一方で負担増や増税をし、一方で負担減や減税を行うことは完全に矛盾しているのである。(以上)

●組合作り・労働相談

共に考え、共に解決しよう

就労できた仲間の拠り所、維持継続を保証します

多摩一般労働組合

●会員になろう

病気で悩んでいる人、苦しんでいる方へ。一人では解決できないときは、ほっとスペース八王子の会員になろう。仲間が相談にのってくれるよ。お気軽に相談を。専門スタッフが対応いたします。

【連絡先】 042-628-2319 (PM12時~13時・15時~19時)

《編集後記》

最近ルボ「貧困大国アメリカ」(岩波新書)を読んだ。著者は堤未果。現在約10万部出ているという。グローバリズムと市場原理主義「新自由主義」の本家アメリカで、日本をはるか凌駕する規模で社会の二極分化・貧困化が起きているのがよくわかる。たとえば、政府の給食費補助削減によって、給食に安価なファーストフードを取り入れた結果、小学校での児童の肥満化が起きていることや、教育費の高騰で、大学卒業者の多くが200万から300万(日本円)の借金を抱えていることが社会問題化している。さらに悲劇なのは、こうした学生が借金を返済するために軍や、戦争民営化を請け負った派遣会社リクルーターからの一本釣りでイラク戦争にかり出されていることだ。市場原理主義による行き過ぎた競争主義が、社会的弱者である若者や貧困スライルに落ち込んだ中産階級(かつての)の人々を犠牲にしている。この本は日本社会の近未来図とも読めるだろう。

「反貧困」の湯浅誠氏の指摘だが、現在の日本は社会的セイフティネットに大穴が開いているため、貧困化すると一気にどん底まで落ちる「すべり台」社会だ。当然ながら人間を再生産できない社会に未来はない。誰に対しても人間らしい労働と生活を保障できる「強い社会」(＝当たり前前の社会だ)をめざさなければならぬ。まったく同感である